

社会

社会科では、「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、問題解決的な学習を通して資質・能力を育成するため、児童が探究のプロセスに応じて主体的に ICT を活用した学び方を身に付けるなど、下の図のように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが大切です。

社会科の授業づくりのポイント

- 児童が見方・考え方を働かせるための「課題」「資料」「学習活動」の工夫
- クラウドやチャット等を活用した探究や必要感のある協働

□ 児童が見方・考え方を働かせるための「課題」「資料」「学習活動」の工夫

児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、問題解決的な学習を行うポイントは、教師が「課題」「資料」「学習活動」に「見方・考え方」を潜ませるような授業をデザインすることです。

例えば、第3学年「販売の仕事」の学習では、「消費者の願い」「販売の仕方」などの視点や「どのように」「どこから」などの方法に着目した課題となっていること、視点や方法に結び付く資料となっていること、社会的事象を関連付けて思考できる学習活動となっていることが大切です。また、学習した内容を教師がまとめるのではなく、児童が自分の言葉で説明し、まとめることが重要です。

【Check!】
 児童が「見方・考え方」を自ら働かせられるような課題のつくり方




【児童の「見方・考え方」が働く資料の例】

□ クラウドやチャット等を活用した探究や必要感のある協働

児童が主体的に学ぶ授業のポイントは、児童がクラウドやチャット等を有効に活用して探究したり、必要感をもって協働したりすることです。

児童が探究する際はクラウドを活用し、自分の好きなタイミングで他の児童のスライドや振り返り等を参照できるようにすること、協働する際はチャットを活用し、調べたことを交流したり、相談したりすることが有効です。1 単位時間の学習展開を学級で一律に行わないことで、児童主体の多様な学びが展開されます。

